

今日のトピック 中国の鉱工業生産は4カ月連続プラス 消費の回復は鈍い

ポイント1 鉱工業生産はプラスが続く 小売売上高は回復遅れる

- 中国国家统计局は14日、主要経済指標を発表しました。7月の鉱工業生産は前年同月比+4.8%と、6月から横ばいで、4カ月連続のプラスとなりました。ただ、市場予想(+5.2%)は下回りました。品目別の生産量をみると、販売が好調な自動車は+26.8%、在宅勤務で需要が増えたコンピューターは+17.8%と高い伸びとなりました。
- 7月の小売売上高は前年同月比▲1.1%と、6月の▲1.8%から減少率が縮小したものの、市場予想(+0.1%)を下回りました。業種別にみると、新車販売が好調だった自動車が+12.3%と伸びた一方、飲食業は▲11.0%となるなど、新型コロナウイルスの影響が続き、回復が遅れています。

ポイント2 固定資産投資も回復傾向 不動産開発投資は2カ月連続プラス

- 1~7月の固定資産投資は前年同期比▲1.6%と、市場予想通りで、1~6月の▲3.1%から減少率が縮小しました。内訳をみると、堅調なマンション販売などから、不動産開発投資が+3.4%と、2カ月連続で前年を上回りました。

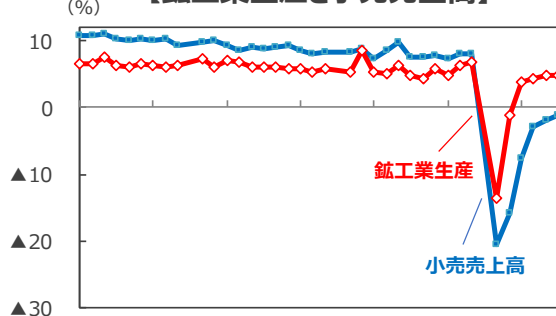
今後の展開 20年の中国経済は2.6%成長を予想

- 新型コロナの感染拡大の封じ込めにいち早く成功した中国は、他国に先駆けて経済活動を再開し、4-6月期の実質GDP成長率が前年同期比+3.2%となるなど、景気が回復基調にあります。ただ、7月の主要経済指標をみると、消費の戻りが遅れており、ここに来て回復ペースがやや鈍化している模様です。
- 弊社は、消費見通しの引き下げを主因として、2020年の実質GDP成長率見通しを+3.6%から+2.6%に下方修正しました。今後中国政府は景気刺激策を緊急モードからやや緩和するとみています。

ここもチェック! 2020年8月14日 運用者の視点：中国の『K字回復』
2020年7月17日 中国のGDP成長率は2期ぶりにプラス転換

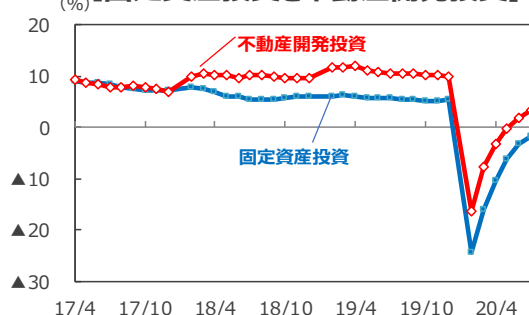
■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。

【鉱工業生産と小売売上高】



17/4 17/10 18/4 18/10 19/4 19/10 20/4
(注) データは2017年4月~2020年7月、前年同月比。(年/月)
各年2月のデータは1~2月の年初来累計の前年同期比。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【固定資産投資と不動産開発投資】



17/4 17/10 18/4 18/10 19/4 19/10 20/4
(注) データは2017年4月~2020年7月。
年初来累計の前年同期比。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成